行政視察報告書

令和6年 5月 22日

長浜市議会議長 中川 勇 様

長浜市議会議員 高山 亨

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和6年度議会運営委員会行政視察研修
2. 視察期間 令和6年5月20日(月)～5月21日(火)
3. 視察場所及び目的
 - ①長野県伊那市
議会改革の取り組みについて、オンライン委員会の整備等について
 - ②長野県駒ヶ根市
議会改革・議会機能向上推進委員会の取組について、事業評価について、基本条例の「評価・検証」について

4. 調査内容感想等

・視察の目的

本市議会でも「議会基本条例」で定めている内容の実践の改善が必要であり、また不十分な点を補い充実させていくことが必要との認識から、議会改革に取り組んでおられる市議会を訪問し直接取組について意見交換をしながら、本市に生かせる内容を模索するため。

・視察内容

① 長野県伊那市

1) オンラインでの本会議・委員会の開催要綱の作成について、コロナ禍を通じて感染症だけでなく災害や家庭事情等によりオンラインによる委員会・本会議

長 浜 市 議 会

への参加が可能な要綱を、令和6年3月議会で制定されました。想定される大変細かいところまで明文化されており、本市議会のルール作りに大いに参考にできるところです。

2) 主権者教育の一環として、小中学校・高校への議会傍聴や意見交換会に積極的に取り組んでおられます。H30年の選挙で無投票選挙になったことをきっかけに、議会に関心を持ってもらい将来の主権者を育成しようと小中高の子どもたちと交流することを始められたとのこと。議会傍聴や学校へ出前講座もしながら、高校生には議場で探求学習の発表会を実施されている。先の3月議会ではそうした高校生の一人からまちづくりの提言になるような「請願」が出され驚いたと言われていました。

3) 市民の声を政策に生かす取組として「テーマごとに関係する市民との意見交換会」を以前から実施されています。そして新たに各常任委員会に5名程度の政策サポーターを委嘱して意見を聴くことをスタートされています。どのような取組になるかを注視していきたいところです。

② 長野県駒ヶ根市

1) 「議会機能向上委員会」が議会改革を常に意識して恒常的にこの委員会で発信しています。事業評価や議員質問の仕方の改善など、現在も進行中で取り組んでいるとのこと。

2) 議員間討議の実践は、構えすぎてなかなかできなかったようです。それをネーミングもやり方も気楽にできる「クールダウンミーティング」と称して委員会のあと30分を使ったり、場所を変えたり、服装も自由にして始めておられるとのこと。これも現在進行形なので、今後政策論議に発展できるように考えていきたいとのこと。

3) 「広報広聴活動」にも力を入れておられます。2つの常任委員会ごとにテーマを決めて市民との意見交換会を従来より実施をされています。「子ども未来会議」と称して中学生との意見交換の場も設定し、将来の主権者に向けてふれあいと情報発信をされています。現在は高校生との交流を企画中です。令和2年からは「議会広報モニター制度」をつくり、現在17名の方に「議会だより」や市政

についての声を聞きながら、読みやすく興味を持ってもらえる編集改善に力を入れておられます。また女性議員の比率(33.3%)が全国トップですが、それを維持できるように女性が発言しやすいまちづくりを意識して女性議員連盟も作りながら男性議員も巻き込んで議論を進めているとのことでした。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

両市とも隣市どうしで連携や学び合いをされているのか、よく似た取組をされていた。市民との意見交換だけでなく、子どもたちや若者を対象に、主権者教育として、世代をつなぐ取組として、小中高の子どもたち・生徒の、市政・議会学習の機会をできるだけつくり、中高校生とはまちづくりの内容で、意見交換もされていた。学校数や庁舎までの距離も違うが、本市議会のできることを模索していきたい。

また、市民が市政に対して提言や意見を述べる機会をどのように作っていくのかが問われており、この点での模索が本市議会の大きな課題でもある。「モニター制度」「サポーター制度」は参考になるものであるが、両市の現在進行形の取組の様子を聴きながら、本市の独自の取組を検討していきたい。市民に理解関心を持ってもらえる「広報広聴活動」のさらなる前進も必要である。